

令和4年度 学校経営計画・学校評価

4月5日提出 10月3日提出 3月15日提出

学校番号	33	須崎総合高等学校	課程	全
------	----	----------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
	目指すべき姿	目指すべき姿を実現するための取組等	1進路を切り拓くための指導に基づく学力向上 2「夢」や「志」を持たせる指導の充実と、目指す進路を実現できる指導の推進 3力を引き出す生徒指導と予防的支援の展開 4社会の一員として責任を果たすことができる社会力の育成 5故郷を大切に思う生徒の育成に向けた地域との連携

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 】
【社会性の育成】	評価 【 】
【チーム学校】	評価 【 】

《重点項目：生徒に対する取組項目》

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○授業等において内容理解に向け意欲的に学ぼうとする生徒【取組力】 ○課題を最後までやり抜くことができる生徒【持続力】 ○将来の進路を意識した学習ができる生徒【自己実現力】	○AB層を増加させ、D層・D3層を減少させる指導(普通科 A/B層の増加、D層30%以下、工業科 A・B層の増加、D3層25%以下) ○授業におけるめあてや目標の提示と、振り返りの確保による学習内容の定着度の向上 ・授業の振り返りができている。(70%以上) ○国公立大学合格者 5名以上(R3:5名) ○公務員合格者 2名以上(R3:0名)	→長期休業中・授業の中でワンウィークトライアルやスタディサポート活用、ブックの積極的な活用 評価が、2段階上昇した生徒の表彰制度 →学習成果発表会(総探・課題研究)の活用				
社会性の育成	○場に応じた適切な言葉遣いができる生徒【コミュニケーション力】 ○場に応じた適切な行動ができる生徒【自立性・自律性】 ○規則やルールを守ることができる生徒【道徳性・規範意識】	○ボランティア活動の推奨による自己効力感や自己有用感の育成 ・地域貢献やボランティア活動に参加(50%以上) ・Can-Doリストの活用(3,2級) (R3:2, 9) ・「海のまちプロジェクト」須崎市との連携、地域協働活動推進委員との展開	→自治体や地域と連携した防災活動の展開をととして、頼られる学校・生徒の育成 =ボランティアポイントの紹介と活動へのいざない →Can-Doリストの自己評価 →須崎市との「海のまちプロジェクト」地域交流活動、地域共同活動推進委員との展開				

《チーム学校：教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	分かりやすい授業の指導技術の向上、創意工夫	・「学習のねらい」(85%以上) ・学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある(80%以上) ・ICTを活用した授業実施(90%)	・公開授業による参観授業、振り返りの実施、管理職の巡回及び授業参観 ・各教科会、科会の実施 ・管理職面談による進捗状況の確認 ・ICTを活用した公開授業の実施				
生徒理解 生徒支援	教職員間の情報共有により、円滑な学校生活を送ることができる生徒支援を実践する	○生徒支援委員会を開催し、教職員に周知し、SCやSSWとの情報交換もしている。 ・学校の生徒支援は充実している(80%以上) ・悩みや困ったことについて気軽に先生に相談できる(80%以上)	・科会、教科会等による生徒情報交換会 ・特別支援教育学校コーディネーターによる生徒支援委員会の実施 ・生徒理解・支援の研修会を実施 ・SCによる新入生全員の面談を実施				
学校の振興	教育内容の充実を図り、魅力ある学校づくりを目指す	○進学・就職に向けた補習は予定通り実施できたが、開かれた学校づくり推進委員会は書面開催であった。「学校生活は充実」は86.1%であった。部活動の加入率は70%以下であった。 ・学校生活は充実している(90%以上) ・部活動の活性化(加入率85%以上) ・学校運営協議会の活性化 ・自治体・大学との連携(10回以上)	・進学・就職補習の実施 ・資格取得に向けた補習の実施 ・学校行事等の地域への発信 ・学校運営協議会の実施 ・部活動の継続・維持				
働き方改革	チーム学校づくりの構築をさらに推進する	○分掌業務の複数での取組はでき始めているが、部活動業務の分担に偏りが見られる。 ・45時間超勤務者を月平均5人以内 ・ベテラン教員から若年教員への業務指導及び協働 ・組織的な協力体制の構築 ・各種会議の短縮及びグループウェアの活用	・超過勤務の意識化とICTの活用 ・各学年やホーム担任・副担任での役割分担 ・各分掌内での役割分担、チームでの取組 ・職員会議の月1回の開催 ・部活動の役割分担				
産業教育の充実	○生徒の資質・能力の育成 ○教員の指導力向上 ○関係機関との連携 ○専門高校(学科)の魅力化	○基礎的な学習習慣が身につけられず、基礎学力の低い生徒が多い。ホーム内での生徒の習熟度が異なる。工業技術者としての社会性と技術の向上。 ・各専攻の特質を生かした工業技術者としての知識や技術の修得(進路実現100%) (R3:95.2%) ・資格取得、合格に向けた指導(合格率 75%以上) (R3:70.3%) ・企業見学、外部講師事業の活用、充実 ・熟練教員による若年教員への技術の伝承	・朝学習やシラバスの有効活用 ・公開授業による参観授業、振り返りの実施 ・各教科会、科会の実施・進学・就職補習の実施 ・資格取得に向けた補習の実施 ・学校行事等の地域への発信 ・課題解決型課題研究等の実施				